

核兵器ある限り だれもが人質に

【ウィーン=島田峰隆】オーストリアの首都ウイーンで20日開かれた同国政府主催の「核兵器の人道的影響に関する国際会議」では、各國政府や国連機関の代表、国会議員、研究者、市民社会の活動家などが核兵器の非人道性について多彩な角度から議論しました。参加者から、核兵器廃絶に向けて非人道性の観点を中心に据えて議論する重要性が改めて語されました。

「ニューヨーク州立大学のトグジャン・カセノバ教授は、カザフスタンでの原爆による核実験の影響を報告しました。核実験場近くの住民にがんが多く見られ、「患者は観察はされたが治療はされなかった」と批判。時間も苦しみは続いている」とし、「核兵器について抽象的な議論をしてはならない」と述べました。

核兵器が存在する状態では「われわれはみな、

非人道性会議 多彩な議論

核保有国に人質として取られている」と訴えました。赤十字国際委員会（ICRC）法務部門の責任者を務めるゴルダウラ・ドゥルガ氏は、核兵器の増強、近代化が進んでいたことに懸念を表明。世代を超えての被害や性別による被害の違いなど、「核兵器の人道的影響」に関する国際会議はノルウェー（2013年3月）、メキシコ（14年2月）、ウイーン（14年12月）に統じて今回が4回目。同会議は、17年の国連会議で採択された核兵器禁止条約を推進する力となってきたま

ならない」と述べました。

米シンクタンク「軍備管理協会」のダリル・キンボール会長は、ウクライナ情勢に関して「いつたん核兵器が使われてしまうと未知の領域に入ってしまう」と強調。「核兵器禁止条約の第1回締約国会議は核兵器の使用や使用の威嚇に反対する規範を強化する重要な機会だと期待を表明しました。

6/22 金曜

第1回締約国会議開幕

核兵器禁止条約

「ますます重要な」

新たに3カ国批准

【ワーン＝島田謙一】
オーストリアの首脳ワイン
ドリード、核兵器禁止条約
第一回締約国会議が始まり
ました。23日までの会議で
はまずまず順調で問題な
いものになってしまった。今ま
ストリア外務省のアレクサ
ンダー・クメント事務局長
は「核兵器禁止条約そのも
のが人道的の風影を示す
機会にした若い条約を強
化しよう」と強調しまし
た。

強力なメッセージを送れる
と確信している」と語った
した。
クメント氏は、軍拡競争
の激化や核兵器使用の威嚇
に懸念を示し、「禁止条約
には日本共産党中央委員会
がヒトオッセージを寄せ
て「核兵器がわれわれを絶
命を脅迫しました。」



抑止力論のものも明確に

ウイーン核兵器の非人道性会議

【ワーン＝島田謙一】
20日、オーストリアの首
脳に属する国際会議が開
かれました。外交官、学
者、市民社会のメンバーが
核兵器のない世界に向けて
いた。

核兵器禁止条約第一回締約
会議の開幕を記念して開
催する「核兵器の人道的影
響」は地域全体に影響し得
る人道的危機に対処する
ことは不可能である。「核の
加する他の核拡散条約
（NPT）再検討会議で論
議を継続する」と期待を
示しました。

締約国のほか、最初だけ

を決めた国が（約30カ国）
がオバマ大統領が主導して
ます。20日にオバルド、
グレンダ、ティモールの
3カ国が条約を批准し、締
約国は85カ国となりまし
た。

会議には日本共産党中央委員会
が井川衆院議員が代表と
して参加しています。

会議では日本原子力発電事
務局長が被爆体験を語りま
した。

「ロンドンのウクライナ侵
略が、核兵器が戦争をもぐ
のではなく、むしろ核保有
国が戦争を始めたから争
ひをやめようとする結果をも
たらせるところを実験をして
しまった」と強調しました。

会議では日本原水爆被害

は、「ロシアの指導的な政
治家が核兵器の使用の威
嚇は、使用が今日いかに現
実的危険になつてゐるか
を示し」核抑止力論に着目
してこの「人道的」を強調し
ました。

会議では日本原水爆被害

は、「ロシアの指導的な政
治家が核兵器の使用の威
嚇は、使用が今日いかに現
実的危険になつてゐるか
を示し」核抑止力論に着目
してこの「人道的」を強調し
ました。

会議では日本原水爆被害